

生命が生き残ってきた DNA の叡智を引き出しながら、

身体が勝手に回避する状態をつくる

今まで学んでいた武道や格闘技の技術が無駄にならない

全てが調和のとれた“大和の精神”を肉体に宿す方法を

運動嫌いでも毎日続けられるレベルで

中国武術の世界チャンピオンが伝承する無料講座

[申込みはこちらをクリックしてください。](#)

本講座の監修者レノンリープロフィール

一般社団法人国際徳育協会最高顧問。1971 年生まれ。兵庫県伊丹市出身。

2009 年 国際武術大会チャンピオン（香港）

2010 年 世界伝統武術大会チャンピオン（中国）

幼少期は、日本とコリアンのハーフであることを公開したことにより、差別を経験。強さを求め喧嘩に明け暮れる。21 歳の時に武学の師匠と出会い、「強さとは何か？」を再定義。本物の強さを求めた末に「自他不敗」の概念に行き着く。

37 歳の時、敬愛する兄のガンの闘病に惜しげも無く全財産と時間を投入するも助けられず、無力感に苦しむ。

しかし、そのことから生きる目的が明確化する。

その後は、国連 NBN マラリア撲滅運動をアフリカで展開・JCI 世界会頭のセクレタリーとして各国の首脳との会談・国連 MDG's 推進・NPO 国境なき奉仕団の活動など世界 50 カ国以上で活

動。

全国の小・中・高等学校、ロータリークラブ、三菱東京 UFJ 銀行、税理士会、行政書士会・倫理法人会など、全国で講演・セミナーを行ってきた。

現在は武学士レノンリーとして、世界から戦争・差別・病気・貧困を解放し、より良い世の中を創る指導者創りを実践している。

武学とは、私（私道）です。

武学を理解するには、はじめに『武』の意味についての理解が必要です。

『武』とは「二つの戈を止める」と書いて『武』と書きます。

そのため『武学』とは、自分や相手などの「争いを止めるための学問」となります。

私自身は、今回ご紹介する武学体術を学んでいくことで、あなたに「本来の私を理解し、それに従って生きて欲しい」と考えています。

これは外から学んできた成功哲学や「こうすれば上手くいく」といったノウハウなどではなく、あなた自身にとっての成功、あなた自身が本当にやれることを、あなたの内なる声から聞き出すことです。

例えば、あなたが武学を学ぶ理由が

「人間関係をより円滑にするため」

「真の強さとはなにか？を知りたい」

「大切な家族を守りたい」

「世界をより平和な世の中にしたい」

「音楽の素晴らしさを多くの人たちに伝えたい」

…などなど、どのような理由であれ、そのために武学体術を活用して下さい。

なぜなら武学における体術を学ぶ理由は、あくまで「“私道”を見つけるための単なるツールだから」です。

積みば積むほど強くなっていく（練習量を裏切らない）

もしかしたらこれを読んでいるあなたは「なぜ格闘技や護身術ではなく、武術を行う必要があるのか？」と、疑問に思ったかもしれません。

しかし、武術は格闘技や護身術とは、本来の考え方や発想が異なります（どちらが良いとか悪いとか、そういう話ではありません）。

まず、格闘技をやっていた経験のある人なら分かると思うのですが、格闘技は3つの限界点を向上させることで強くなっていく技術です。

その「3つの限界点」とは、

- スピード（SPEED）
- スタミナ（STAMINA）
- パワー（POWER）

この3つです。

そしてこの3つの要素は、若いときには少しずつ伸びていくのですが、ある時を境に、少しずつ衰えていくものでもあります。

なので、

1. 25歳の格闘技をやり始めて7年くらい経った人

2. 50歳の格闘技をやり始めて30年の人

この2人が戦った場合、明らかに25歳の格闘技をやり始めて7年の方が勝ちます。

しかし、武術は違います。

武術はどれだけクンフー（功夫）を積んでいるかどうかが、強さの指針となります。

そしてこれは面白いことに、歳を重ねても衰えることのない技術です。

つまり、毎日きちんと自己鍛錬を行っていれば、25歳の武術経験7年の武術家と、50歳の武術経験30年のベテラン武術家が手合わせした場合…。

50歳の武術経験30年のベテラン武術家の方が、積み上げてきた功夫の量が多いため、勝つのです。

また、本来の武術の成り立ちとして、合戦の際に出来れば兵をできるだけ早く「使い物になる兵を作る」ことが大前提にあり、出来上がったものです。

だからこそ武術には「即習性（すぐに使えるようになる技術のこと）」があります。

そのため、体術を学んで3時間後には、殴られそうになった拳を達人のように捌いている状態になったりします。

ただし「勘違いしないでほしい点」が、1点だけあります。

武術とは「相手も生かしながら自分も生きる術」

…だということです。

武術をやり始めた人の中には、自分の強さを確認するために、喧嘩に使い始める人が一定数出てきます。

これは、格闘技や武術をやっていた人間には、あるあるネタだったりするのですが…実は武術における“真の強さ”とは、喧嘩で強い人間になることではありません。

本当に強い人間は「自分も殺さないし相手にも殺させない、守り人になること」です。

これは当初、格闘技をやっていたリー先生も、武学を学び始めた師匠のところで最初に学んだことでもあります。

リー先生は、師匠に弟子入りして1日目に「で、何しに来たの」と尋ねられました。

「強い男になりたいです」

「強い男って、例えばどんなやつ？」

「格闘技の世界チャンピオン」

「アホか、格闘技の世界チャンピオンは、全然強くない」

「いやいや、強いじゃないですか、格闘技の世界チャンピオン」

「…もし、格闘技の世界チャンピオンがアメリカ大統領と戦ったらどうなる？」

「…銃で撃たれて秒殺される」

「そう、秒殺される。 本当に強い人間になるということは、アメリカ大統領と仲間になれる

『徳のある人間』になることだ」

このやり取りが、リー先生が初めて師匠から学んだ、武学の内容でした。

つまり、武学体術はあくまで「戦わないし争わない、自他不敗の概念」を肉体に宿すことで、

『相手に悪いことをさせないための用心』するための活学なのです。

これは実際に武器術や実際に稽古をすると分かりやすくなるのですが…。

例えば武器術をやると「意識だけで武器を持っていることにする」という、ある種『HUNTER

× HUNTER』に出てくる念能力のようなことが、可能になります。

この意識体での武器を持った状態を使うと、実際には武器を持っていないし、切られていないのに、切られている状態を創り出すことが出来ます。

もちろん意識体での武器は、本当に刃物のように切れるわけではないのですが「実際には切っていないけど切られた状態」を創り出す事が出来るため、自分も負けないし、相手にも一切ケガをさせずに倒すことが可能なのです。

…と、言葉にするとどんどん怪しさが満点な内容になるのですが、実際に体感すると、本当に“ある”ことがわかります。

また、肉体の使い方一つで、相手から戦う気さえ起きない状況を、つくることも可能です。

例えば、酔拳の八人の仙人の中に『藍采和（ランサイワ）』と呼ばれる仙人が居るのですが、この仙人はあらゆる攻撃を無力化する仙人です。

この藍采和のトレーニング方法に、相手を実際に叩いてみるトレーニングがあります。

このトレーニング方法で分かることが、もし自分の身体の中に力みがあると、軽く叩いただけでも痛いのですが、身体を水のように柔らかく扱えるようになれば、少々強めに叩いても痛くなくなります。

これを実際の対人関係でも実際に活用すると、さっきまで怒っていた相手を鎮めることや、相手の恐怖を消し去ることも可能になります。

なぜなら、相手が怒ろうとしても、怒りのぶつけドコロが見当たらず、最終的には怒る気すらなくなるからです。

もちろんここまで書いた内容について、いまは「嘘だー」と思っている、構いません。

私自身も最初は、そのぐらいの気持ちでした。

しかし、これも実際に体感していくことで、後に本当だと分かるようになります。

全てが負けない（大和の精神性）

さて、話を戻しましょう。

「なぜ、武学体術を学ぶと良いのか？」ですね。

実は格闘技や護身術を学び過ぎると、自分の人生をより自分で生きづらくしている可能性が高くなります。

なぜなら「相手とぶつかるのは、自分の中のぶつかり（力み）が体現されるため」です。

もちろん中には「格闘技を通じてより多くの人たちを幸せにする」ために行っている人も居ますし、それはそれでとても良い事だと思います。

しかしどうしても格闘技の設定上、リングの上で相手のことを打ち負かして勝つスタイルが基本なので、自分の承認欲求に傾く可能性が高いのです。

また、護身術の場合は自分が嫌なことをされないために、相手を攻撃して自分の身を守る発想なのですが、護身術の難点は「相手を怒らせてしまい、もっと危険な状態になる可能性がある」ということです。

一方で武学体術は、先ほども書いた通り「相手を守る守り人」になるのが基本概念なので、より相手を守る意識に自然と傾いていきます。

また、相手を蹴落とし自分だけが頂点を目指そうとする人には、師匠が意図的に武学体術を教えないことも可能です。

なぜなら武学体術を教える時は、一子相伝（一人の師匠に対して、一人の弟子に伝える伝承法）で教えるため、師匠は技を伝える弟子を選別出来るからです。

これは師匠の立場になれば分かると思うのですが…。

例えばあなたが武学の師匠だった場合、武学の教え（2つの戈を止める学問）を「ケンカっ早い弟子」に対して、教えたいと思うのでしょうか？

…普通に考えたら、喧嘩に使いそうだし、教えたりはしませんよね（笑）

そうなった場合に、師匠は「ケンカっ早い弟子」に対して、いくらでも嘘を教えて強くしないことが出来るのです。

だから師匠の前では自然と「他人や仲間を守る人間」になっていき、最初はそれが形だけのものだったとしても、段々と相手に礼を尽くすことが当たり前になっていきます。

特に巷にある護身術を学ぶより武学体術を学んだ方が「相手も怒らせること無く自分の身を守ることが出来る」ので、究極の護身になります。

### 正しい師匠に出会うまでが大変

ここまでの内容で、格闘技と武術の違いが何となく分かったと思います。

しかし、武術は「誰から学ぶのか？」を探すのが最も難しいものでもあります。

理由は2つあります。

まず1つ目に先程も書いた「守り人にならなければ教えられないもの」だということです。

武術の稽古を受けた中には、守り人になりきれずに技に傾いてしまう者も居て、正当な継承がされないまま「自分は正統伝承されたから」と名乗っている場合です。

特に洪家拳や太極拳のようなネームバリューを利用して集客してお金を稼ぎ、表面上の武術を教えている人も、結構多いのです。

2つ目の理由が、武術は非常に抽象度の高い学問なので、師匠が自分だけ抽象度を高めていった結果、言語化していく工程を忘れていて他者に現象を説明できないことです。

師匠の抽象度が高い場合、確かに師匠自身は守り人となって色々と技を掛けることが出来る状態になっているのですが「お弟子さんたちがそれを掴めるかどうか？」の武術センスが問われてしまいます。

なので「正当な伝承を行っていて」かつ「他者に教えるのが上手い」先生が、一般人でも武術が上手くなるためには、必須の条件となります。

しかし、これを書いている私自身は偶然にも、その両方を兼ね備えている先生から武学体術を学ぶ機会に、恵まれる事になります。

それが、今回紹介する「レノンリー先生」でした。

レノンリー先生はプロフィールにもある通り、2009年と2010年の世界大会で優勝経験のある武術家です。

また、リー先生は表演武術だけでなく、実際に実践武術の方にも長けています。

なぜならリー先生自身が、中国や香港に何度も足を運んでは武術家を探し求め、見つけたら実際に組手をしてみて「相手が本当に正当な伝承を受けているか？」どうかを検証してから、習う武術家を見極めていきます。

そのためリー先生自身が、様々な武術流派の正統な継承者でもあります。

また、リー先生自身が昔は全然できなかったこともあり、逆に「どこをどう克服すれば、出来る様になるのか？」を最も研究している武術家です。

武学体術の理論を軸にして音楽や自立医療、経営などの色々な知識や経験と交えて考え、検証することを逐一行っていたため、武学を初めて理論的な体系として口伝で伝えている武術家でもあるのです。

### 日常が武術の稽古になる

特にリー先生と話していると「面白い！」と常々思うのが、日常何気ない動作が全て武術に繋がるといことです。

例えば私達が、普段から何気なく行っている“歩く動作”一つ取っても、取り組み方を変えるだけで、立派な稽古になります。

そういった何気ない感覚を意識しながら動くことも大切ですし、もっと広く言えば、普段の経営や対人関係にも、非常に役立てることができます。

実際にリー先生自身も色んな企業をまとめるために武学体術を活用して、三菱東京 UFJ 銀行、税理士会、行政書士会・倫理法人会等でコンサルティングを行った業績もあります。

こういった業績は、しっかりとした実績がなければ、オファーが来ることさえありません。

そういった経営や対人関係、医療、成功哲学などに共通する『普遍の活学』を知識から得ようとするれば、少なからず私達の今まで学んだフィルターを通してから、知識を脳内に取り込みます。

そのため、一部の情報が削ぎ落とされてしまい、会得するまでに膨大な時間が掛かってしまいます。

しかし、頭ではなく肉体を通じて知識や経験を取り込むことによって、自分のフィルターを一切掛けずに直接潜在意識にインストールすることが出来ます。

「本当に必要かどうか？」は、後から実際に自分の身体を使って検証しながらチェックできるのが、武学の面白いところです。

そう、武学体術は「私にとって正しいかどうか？」のチェックが出来るのです。

武学体術には“検身術”と呼ばれる、

今まで“何となく”で説明していた「礼の大切さ」が

ひと目で体感できるワークがあります

特に武学体術の凄いところは、実際に現象として体現できるところにあります。

例えば、あなたは礼儀作法について、正しく説明できるでしょうか？

…ほとんどの人は礼について「何となく、スッキリするから」とか「何となく、正しく礼をしていないとムカつくから」という理由で、礼を重んじるように説明しています。

しかし、いくら「礼が大事なんです」なんて言われたところで、本当に意味があるかどうか分からなかったら、やる気にもなりませんよね？

この“礼”にまつわるエネルギーの変化も、武学体術の“検身術”を使えば、文字通り目に見える形で「礼がいかに大事なのか？」が、分かるようになります。

実際にリー先生は小学校の体育館で子どもたちに“検身術”を使って礼の作法を教えたところ、子どもたち全員が先んじて礼をするようになったくらい明確に、です。

それぐらい、礼がきちんと説明できるだけで、本来の礼の意味や素晴らしさを、正しく説明できるのですが…折角なので、これを読んでいるあなたにも、礼が説明できるようになってもらいます。

というのも…

いま登録すると「礼」に関する体感ワークの動画を

プレゼントする予定です

とにかく武学体術を学ぶにあたって、茶道をするにあたって、会社の上司や同僚に好かれたい場合でも…まず礼が出来ていなければ始まりません。

そこで今回は、礼に関する体感ワークの動画を、メールの1通目でプレゼントします。

その「礼」に関する動画内容については、以下の通りです。

- 礼に隠された意外な目的とは？（実はサムライたちはこれを分かっていたからこそ、日常での礼を重んじるようにしていました）
- 『HUNTER X HUNTER』のネテロも使っていたエネルギーの正体とは？（まるで漫画のようなエネルギーでも、対人で行うと実は“有る”ということが分かります）
- 礼（レイ）という言葉にある背景情報について（日本の文化として、同じ読み方をするものを引っ掛けていることが多いのですが“レイ”もその一つなのです…）
- 現代人の“よくやる礼”は全く違います…実際に正しい礼をきっちりと行うための「3つの注意点」とは？（この3つを抑えていない礼法をやっても、かえって身体が崩れてしまい、力が入らず弱くなってしまう場合もあるのです…）
- わずか5mmズレただけで、礼に秘められた力が機能しなくなります…かなり繊細な「サムライ礼法」について（「サムライ礼法」をきっちりと行うと、かなりのパワーを発揮することができます）
- 見えないエネルギーをいとも簡単に“見える化”するチェックシステム「検身術（PQS）」の使い方について（これを実際に使ってみると、見えないところからの情報も身体はきちんと受け取っていることが分かります）

- 礼をする事によって肉体内部で起こっている、科学的なメカニズムについて
- 礼をすることによって身体に起こる“あるエネルギーの変化”とは？（“あるエネルギーの変化”が起こることによって、身体は自然でパワフルな状態になるのです）
- 武学体術を学ぶことによって、スピリチュアルな世界をより濃く認識することが可能です...その理由とは？
- 礼を使った力は、ほんのちょっとのストレスで、驚くほど簡単に崩れます...その日常生活でのストレスの具体例について（実際にそのストレスが掛かるところをイメージしただけで、身体が崩れてしまうのですが...その乱れたエネルギーの戻し方についても説明しています）

礼に関する体感ワーク動画の感想が続々と届いています。

---

---

今回は「礼の大切さ」について、その秘密を無料の講座内で説明して、実際に体感出来るようになって頂きます。

もしあなたが現在、礼の説明を具体的に出来ないのであれば、さっそく登録してみて、中身を確認してみてください。

[申込みはこちらをクリックしてください。](#)

